

適用は 印を記入する

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
☐有 (□敷地内 □近隣) □ボーリング調査 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定
☐無 (測定予定 □有 □無)
- (2) 地盤調査計画
☐ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 □物理探査 □平板載荷試験 □
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

[illegible]

摘 用 箇 所	種 類	設計基準強度 $F_c = N/mm^2$	スランプ cm	備 考
捨コンクリート	☐ 普通	☐ 13.5、 ☐ 16		
土間コンクリート	☐ 普通	☐ 18、 ☐ 21		
基礎、基礎梁	☐ 普通	☐ 18、 ☐ 21、 ☐ 24		
柱、梁、床、壁	☐ 普通、 ☐ 軽量	☐ 18、 ☐ 21、 ☐ 24		比重
	☐ 普通、 ☐ 軽量	☐ 18、 ☐ 21、 ☐ 24		比重
押えコンクリート	☐ 普通、 ☐ 軽量	☐ 13.5、 ☐ 16、 ☐ 18		比重

- | (3) 鉄 筋 | | 種 類 | 径 | 使用箇所 | 継 手 工 法 |
|---------|--|-------------|--------|------|----------|
| 異 形 鉄 筋 | | □ S D 295 A | 1 6 以下 | 駆 体 | ■ 重ね継手 |
| | | □ S D 295 B | | | |
| | | □ S D 345 | 1 9 以上 | 駆 体 | ■ ガス圧接継手 |
| | | □ | | | |
| 丸 鋼 | | □ S R 235 | | | □ 特殊継手 |
| 溶 接 金 網 | | □ | | | () |

- | (4) 鉄 骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---------|---|---------|------|--------|---|---|---|---|---|---|---|------|------|------|------|
| | | 種 | 類 | 使用箇所 | 現場溶接 | 設計溶接強度 | | | | | | | | | | | |
| 鋼 材 | ■ | SS400 | □ | SA400A | □ | SS400B | □ | 駆 | 体 | ■ | 有 | □ | 無 | ■ | 0.9F | □ | 1.0F |
| | ■ | STRK400 | □ | STRK490 | □ | | | 駆 | 体 | □ | 有 | □ | 無 | □ | 0.9F | □ | 1.0F |
| | ■ | SM490A | □ | SM490B | □ | | | □ | 有 | □ | 無 | □ | 無 | □ | 0.9F | □ | 1.0F |
| | ■ | SSC400 | □ | | | BCR295 | 駆 | 体 | □ | 有 | ■ | 無 | ■ | 0.9F | □ | 1.0F | |
| 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- (5) ボルト
- | | | | |
|----------|---------------------|---------|-------------------------|
| 高力ボルト | ■ F10T □ S8T □ S10T | 認定品 | □ M12、■ M16、□ M20、□ M22 |
| 中ボルト | φ = M16 | φ = M12 | 高力ボルトすべり係数試験 一 取 一 否 |
| アンカーボルト | φ = | φ = | 一 ナット (シングル、ダブル) |
| □ 張付スタット | φ = | φ = | |
| | φ = | φ = | |

- (6) 屋根、床、壁

☐ ALC版
☒ 折 版
☐ デッキプレート
☒ キーストンプレート

厚
 H = 88
 型式
 型式

使用箇所
 厚 0 8
 厚
 厚

備考

(1) コンクリート (1997年度)

- コンクリートは JIS 認定工場製の製品とし施工に関しては JASS5 による。
- セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
- 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- 構造物コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打込み量が150m3をこえる場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からの必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- （2）鉄筋
- 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」による。
- D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えときは、200箇所ごと）に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
- 外観検査 ☐有 ☐無、 引張試験 ☐有 ☐無、 超音波探傷試験 ☐有 ☐無
- 柱の帯筋（HOPP）の加工方法は、☐H型（タガ型） ☐W型（溶接型） ☐S型（スパイラル型）とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱、第4条の試験機関で行うこと。
- 試験機関名 工事監理者が指定する機関
代行業者名 工事監理者が指定する業者（未定）
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者を行う。
- （5）型枠
- 材料 合板厚 12mmを標準とする。 ☐
- 型枠存置期間

種類 部位	せき板				支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
セメント の種類	早強ポルト ラントセメント	普通ポルト ラントセメント	早強ポルト ラントセメント	普通ポルト ラントセメント	早強ポルト ラントセメント	普通ポルト ラントセメント	早強ポルト ラントセメント	普通ポルト ラントセメント
		高炉セメント A種		高炉セメント A種		高炉セメント A種		高炉セメント A種
		シリカセメント A種		シリカセメント A種		シリカセメント A種		シリカセメント A種
存置期間の 平均気温								
コンクリート の材料温度	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5~15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度	50 N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の			
					85%		100%	

- | | | |
|----|---|---|
| 注) | 1 | 片持ちばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。 |
| 注) | 2 | 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。 |
| 注) | 3 | 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。 |
| 注) | 4 | 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。 |
| 注) | 5 | 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。 |
| 注) | 6 | 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。 |

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

- ☒ 日本建築学会「ASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
- ☐
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
- ☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書
☐ 建築省告示第1103号による認定工場 (大臣認定 グレードまたは都登録 ランク)
☒ 材料規格証明書または試験成績書 NDI 2種 or 3種
- ☒ 鋼材 ☒ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ スタットボルト
- ☐ 社内検査表 ☐ ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目
- ☒ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
- ☐ 現寸検査 ☐ 組立・開先検査 ☐ 製品検査
☐ 建方検査 ☐ ☐
- (4) 接合部の溶接は下記によること
- ☒ 東京都アーク溶接工事管理規程 (建築構造設計指針第12章)
☒ 鉄骨造等の建築物の工事に關する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)
☐ 日本建築学会「溶接工作規程、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
 建築工事に關する東京都取扱要綱と解説
- (5) 溶接部の検査
- ☒ 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
☒ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	100%	30%	0%	
☐	外観（目視）検査	100%	30%	100%	
☐	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名	工事監理者が指定する機関				
第三者検査機関とは、建築士、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。 NO1 2種 or 3種					

- 注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
- 高力ボルトは「JIS B 1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グットブラストによる処理で表面あらさが50μ以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めるとする。
- 締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

- (6) 防錆塗装
- ☑ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、J I S K 5 6 2 5 (工場2回塗り) を標準とする。
- ☑ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

- ### (7) 耐火被覆の材料

- ☒ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- ☒ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- ☒ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下と管の間隔を5cm以上とする。

- ④ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- ⑤ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- ⑥ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

1	部	品	名	質	圖書	仕様	備考
1	組立		名	東部総合運動場			
構	組立		構	東部球技場工コリ下改修工事			
				構造設計標準仕様			
	尺	度	第	角	寸	采	照
	1					石川	石川 高橋
要		単	位	mm			
	日	付		図	番	E - ZS - 10115A -	
作	EYE		岩崎電気株式会社				

鉄骨構造標準図 (1)

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

- 構造設計仕様による
- 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが4.0mm以下のものとする
- 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

(2) 工作一般

- 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする

(3) 高力ボルト接合

- 本籍に使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

(4) 溶接接合

- 溶接工
溶接工は施工する溶接に適用するJIS Z3801 (手溶接) 又はJIS Z3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

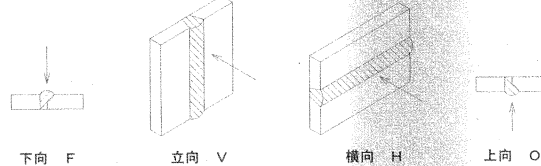
(b) 溶接機器

- 交流アーク溶接機 300A~500A
- 放電ガスアーク半自動溶接機
- アークエアーガウジング機 (直流)
- 溶接電流を測定する電流計
- サブマージアーク溶接機 1式
- 溶接棒乾燥器

(c) 溶接方法

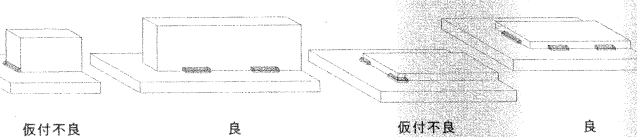
- アーク手溶接 (MC)
- ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
- セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC)
- アークエアーガウジング (AAG)

(d) 溶接姿勢



(e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う

- 仮付位置
仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



(f) 溶接施工

- 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- エンドタブの材質は、母材と同質とする
- エンドタブの長さは、MC: 35mm以上
NGC, GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- フレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る

(g) 裏あて金

- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする

(h) スカールアップ 半径は30~35mmとする

(i) 裏はつり

- 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークをつける

(j) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う

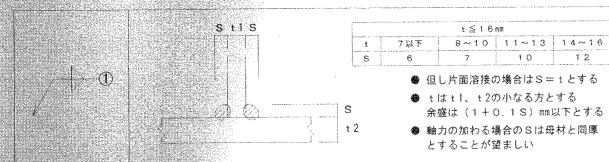
(5) 塗装

- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

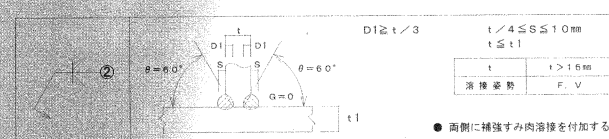
2. 溶接標準図

(注) f: 余高 G: ルート開隔 R: フェース S: 脚長 (単位)

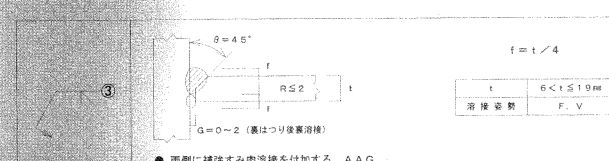
(1) スミ肉溶接



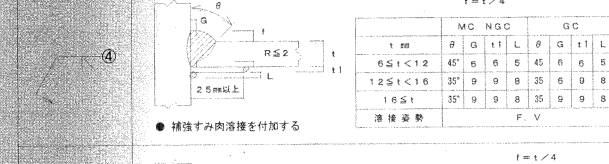
(2) 部分溶け込み溶接



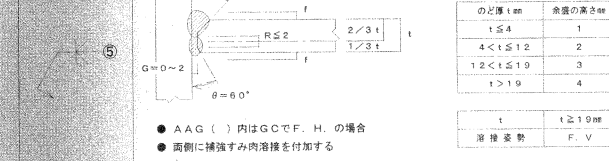
(3) 突合せ溶接



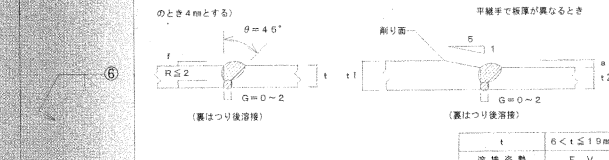
(4) フレー溶接



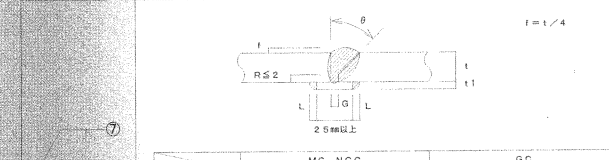
(5) フレー溶接



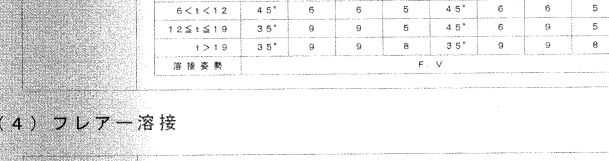
(6) フレー溶接



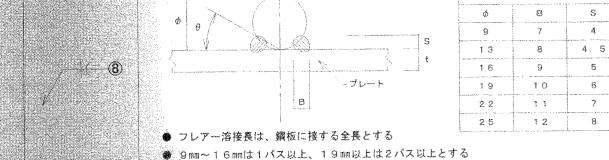
(7) フレー溶接



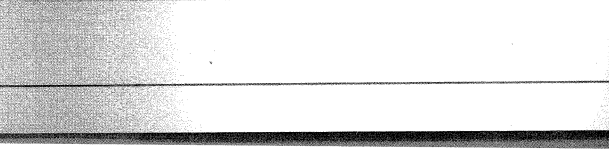
(8) フレー溶接



(9) フレー溶接

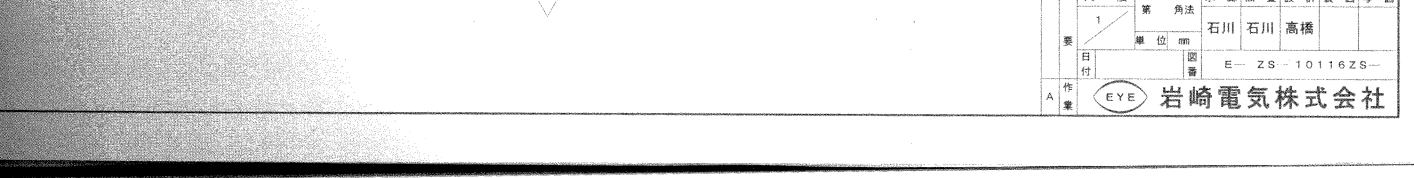
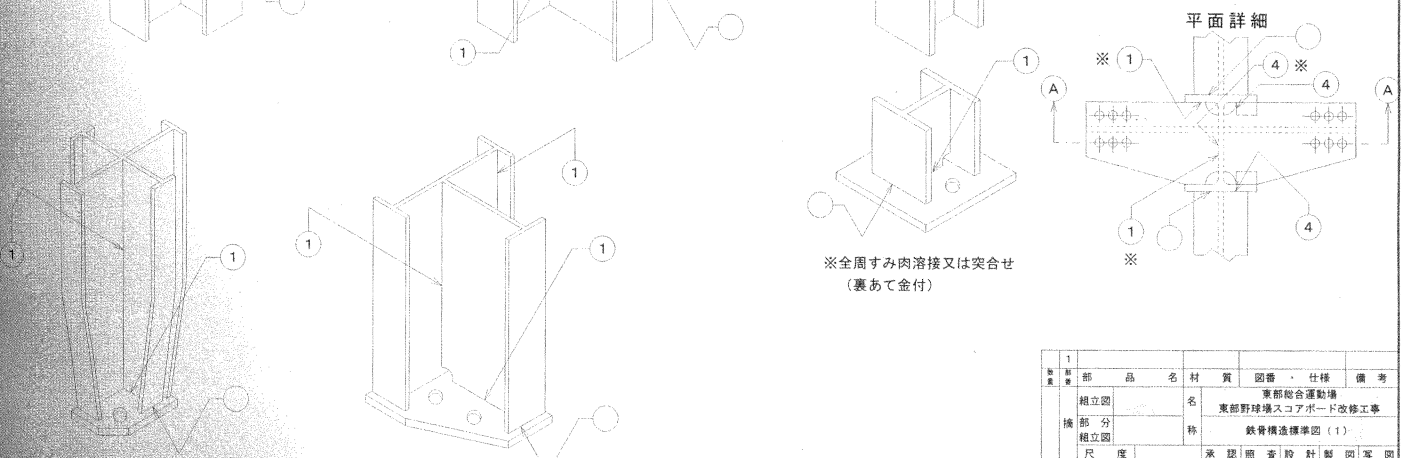
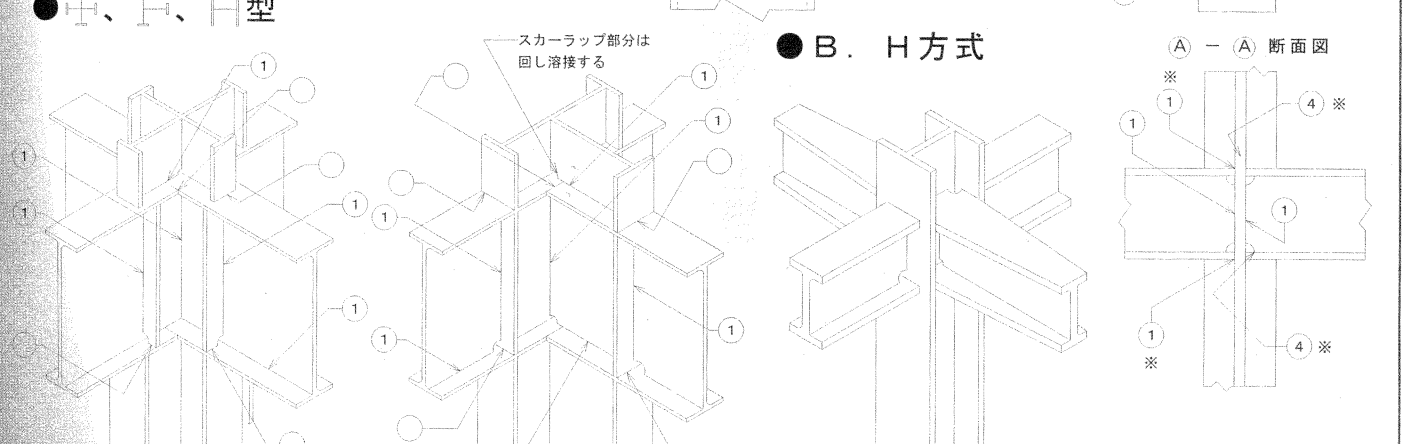
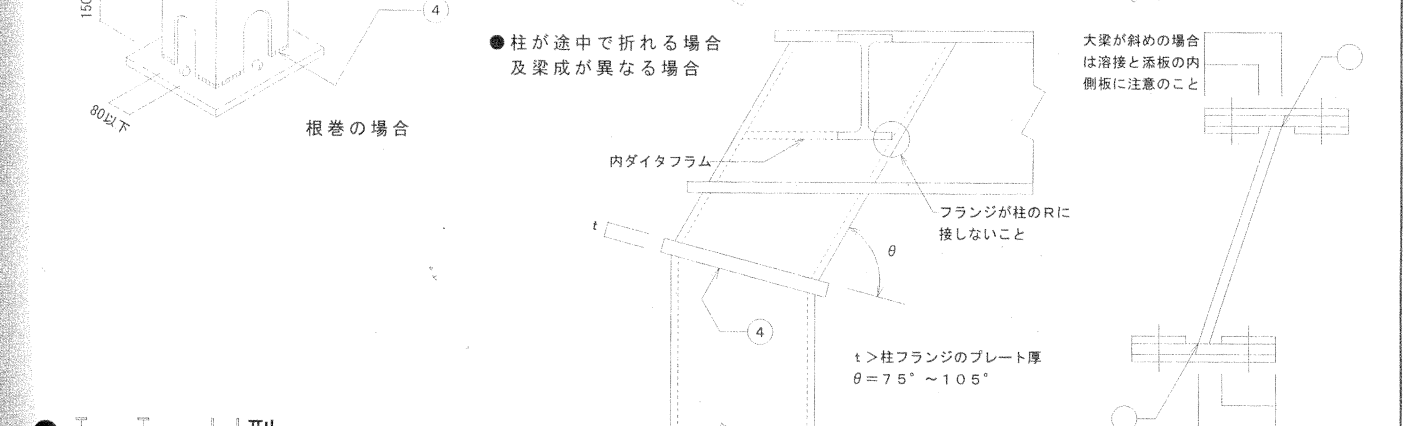
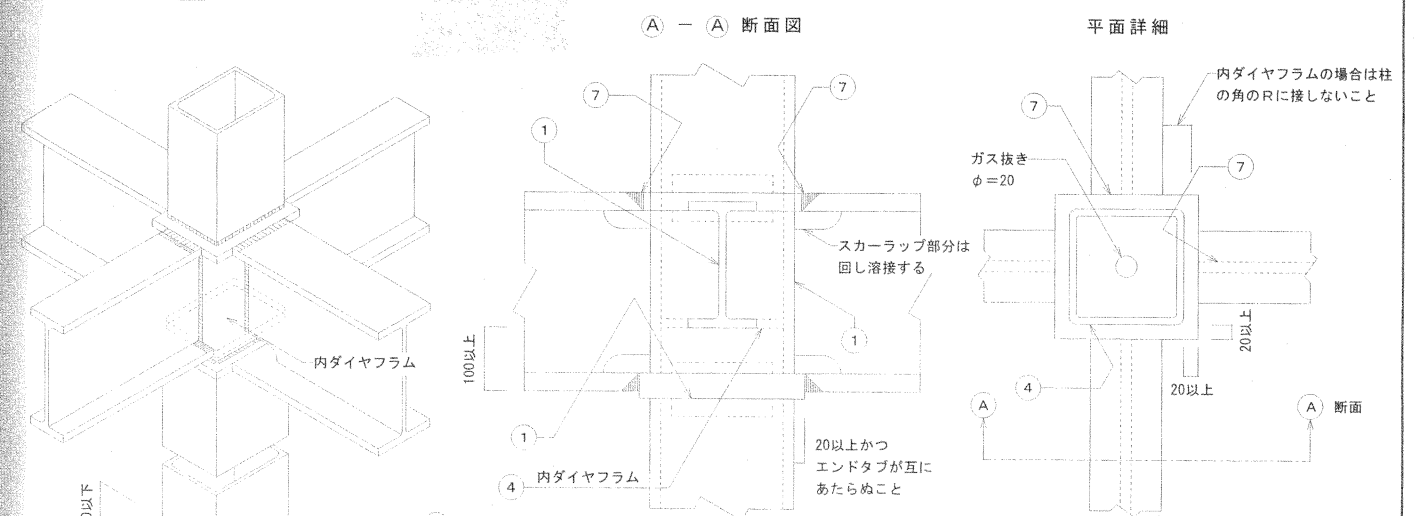


(10) フレー溶接



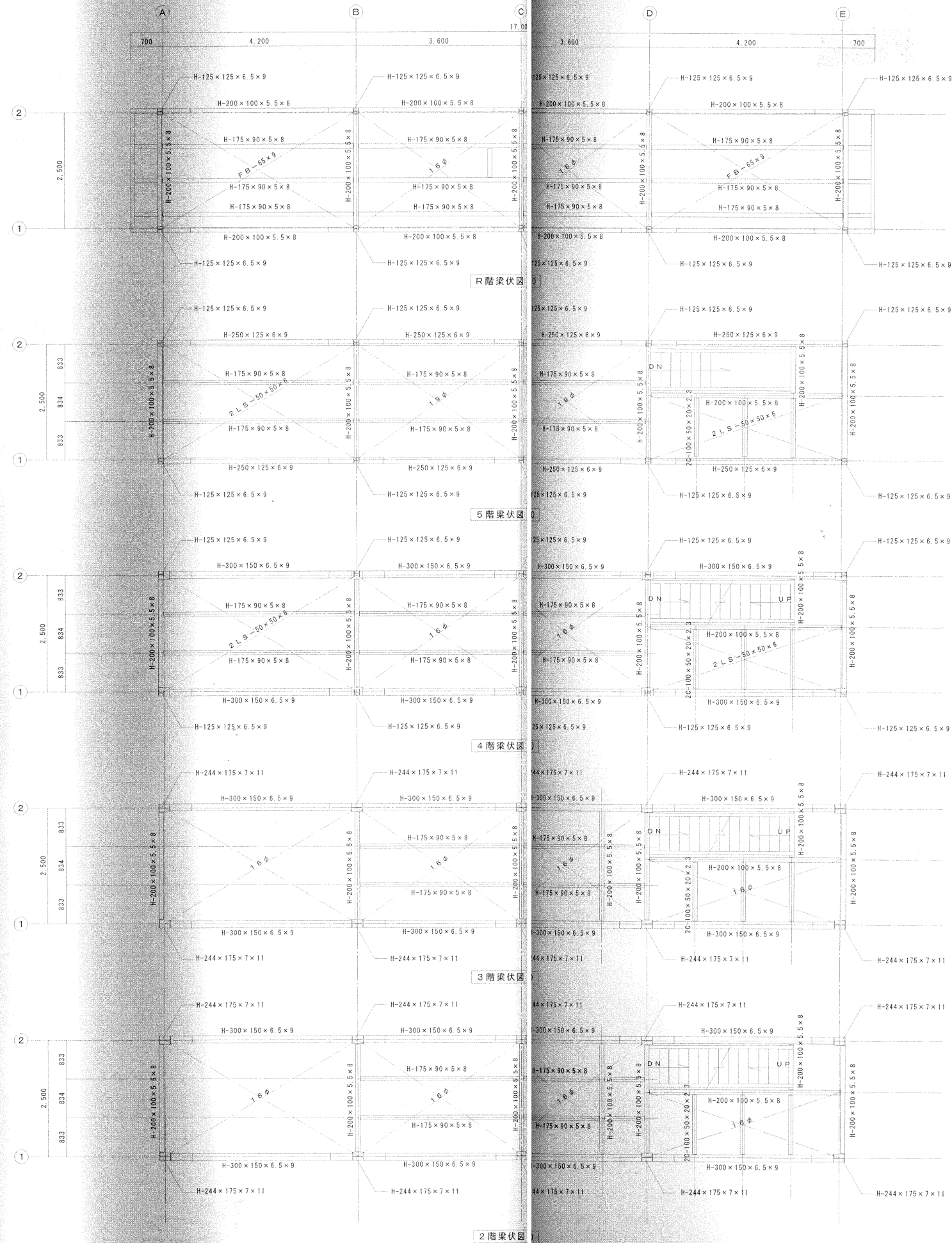
○溶接記号番号を○中に記入のこと

●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



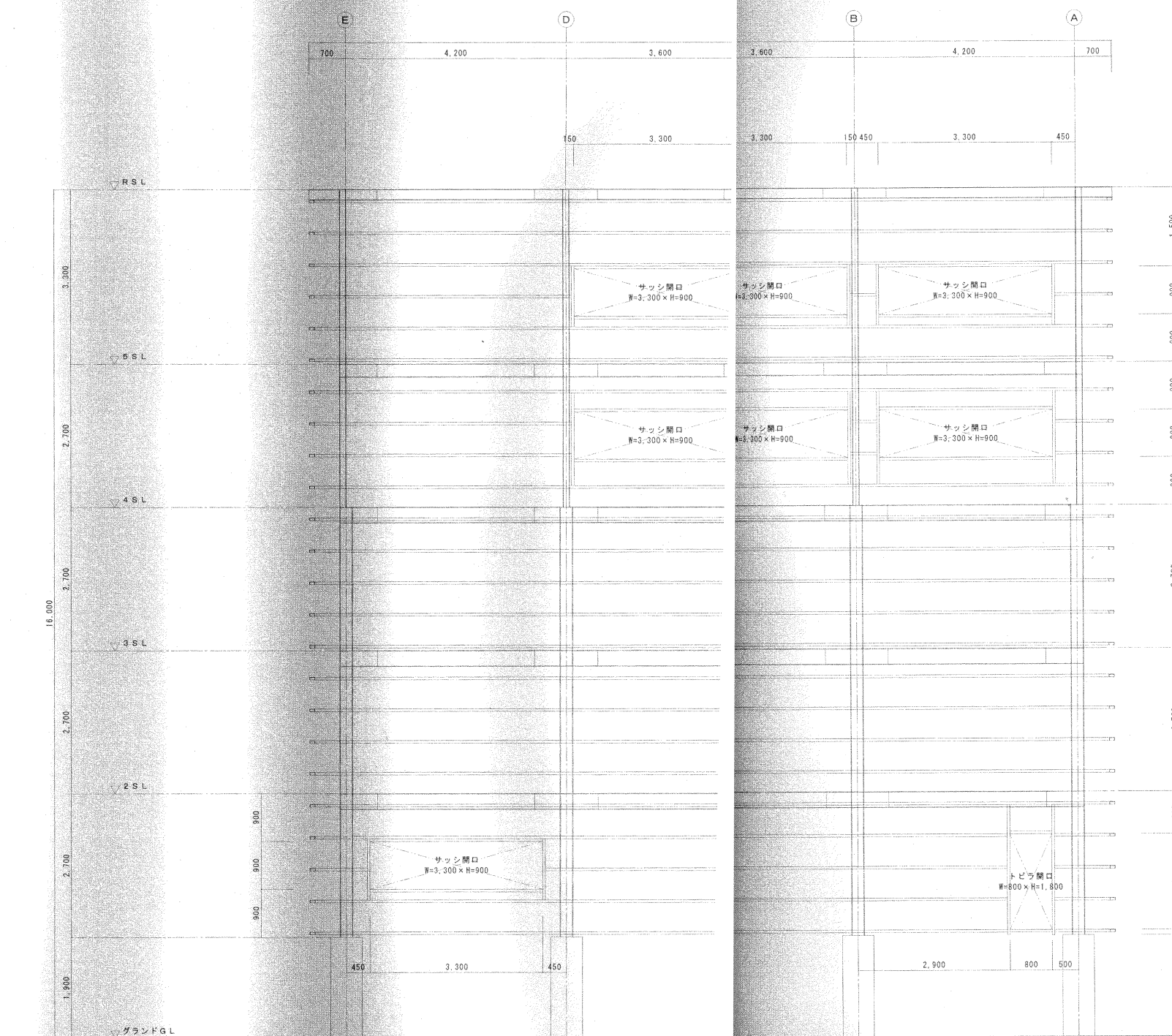
1	部	品	名	材	質	図番	仕様	備考
1	組立図							東部総合運動場
2	組立図							東部野球場スコアボード改修工事
3	組立図							鉄骨構造標準図 (1)
4	組立図							
5	組立図							
6	組立図							
7	組立図							
8	組立図							
9	組立図							
10	組立図							
11	組立図							
12	組立図							
13	組立図							
14	組立図							
15	組立図							
16	組立図							
17	組立図							
18	組立図							
19	組立図							
20	組立図							
21	組立図							
22	組立図							
23	組立図							
24	組立図							
25	組立図							
26	組立図							
27	組立図							
28	組立図							
29	組立図							
30	組立図							
31	組立図							
32	組立図							
33	組立図							
34	組立図							
35	組立図							
36	組立図							
37	組立図							
38	組立図							
39	組立図							
40	組立図							
41	組立図							
42	組立図							
43	組立図							
44	組立図							
45	組立図							
46	組立図							
47	組立図							
48	組立図							
49	組立図							
50	組立図							
51	組立図							
52	組立図							
53	組立図							
54	組立図							
55	組立図							
56	組立図							
57	組立図							
58	組立図							
59	組立図							
60	組立図							
61	組立図							
62	組立図							
63	組立図							
64	組立図							
65	組立図							
66	組立図							
67	組立図							
68	組立図							
69	組立図							
70	組立図							
71	組立図							
72	組立図							
73	組立図							
74	組立図							
75	組立図							
76	組立図							
77	組立図							
78	組立図							
79	組立図							
80	組立図							
81	組立図							
82	組立図							
83	組立図							
84	組立図							
85	組立図							
86	組立図							
87	組立図							
88	組立図							
89	組立図							
90	組立図							
91	組立図							
92	組立図							
93	組立図							
94	組立図							
95	組立図							
96	組立図							
97	組立図							
98	組立図							
99	組立図							
100	組立図							

特 記	図 面 名	製 図 日	校 印
△			



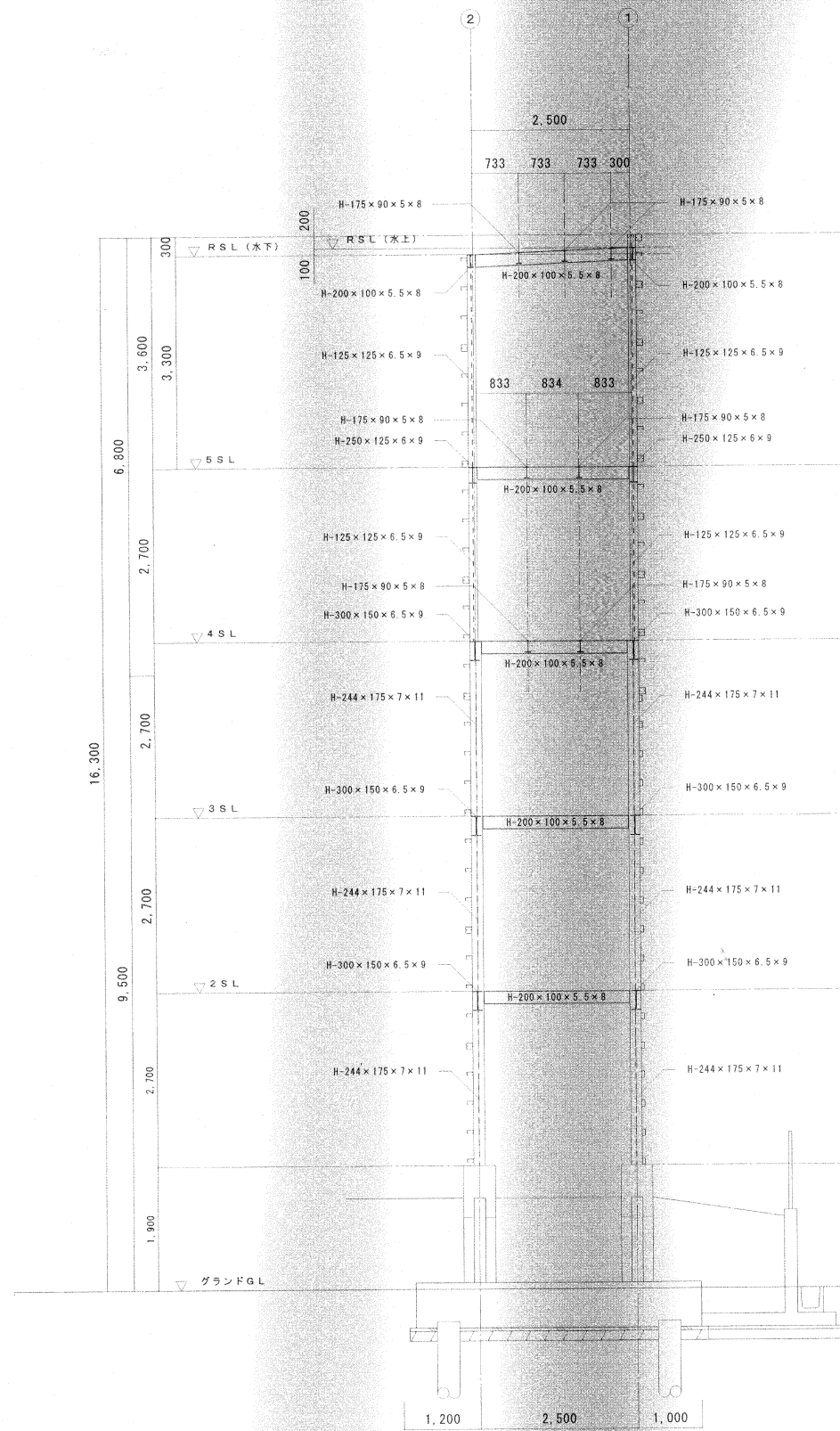
1	部 品 名	材 質	図 番	仕 様	備 考
組立図	名				東部総合運動場
組立図	部 分				東部総合運動場スコアボード改修工事
組立図	尺 寸				既設梁伏図
組立図	第 1 角法				承認照査設計製図写図
組立図	50 単位 mm				石川 石川 高橋
組立図	目 付				E-ZS-10118TA-
組立図	作 業				岩崎電気株式会社

番号	國	面	來	歴	日	付	推
△							

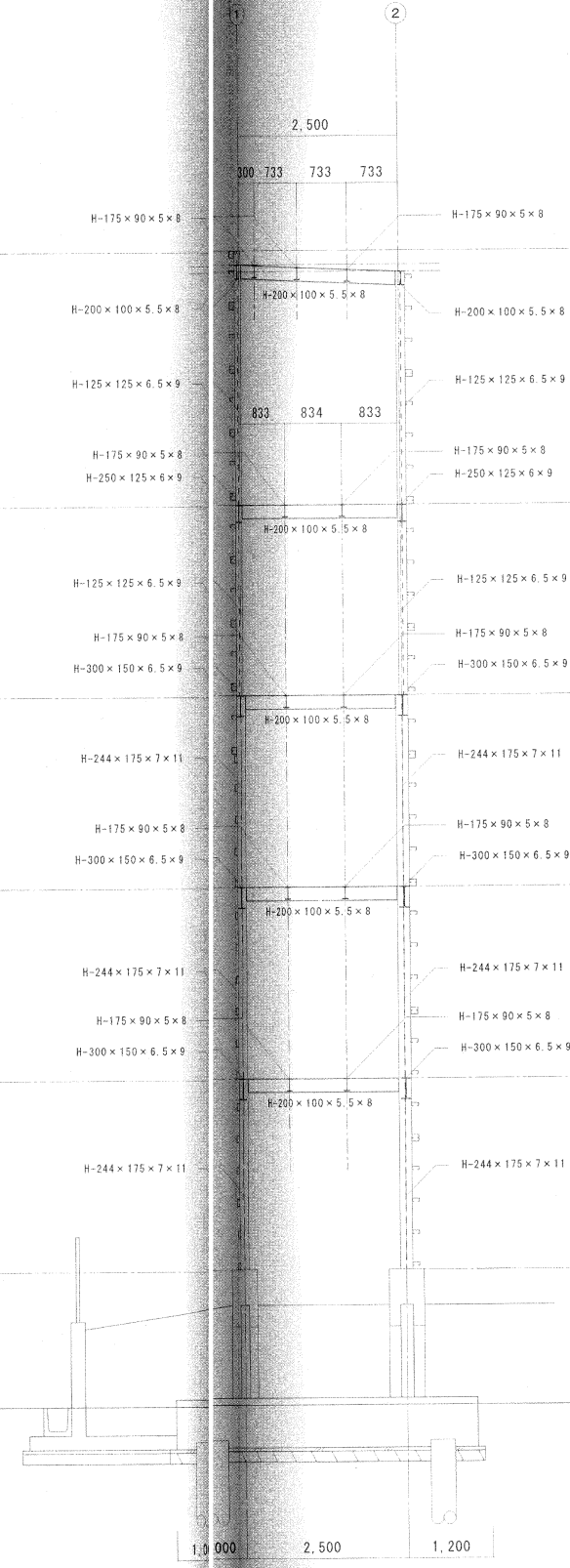


既設 2 通

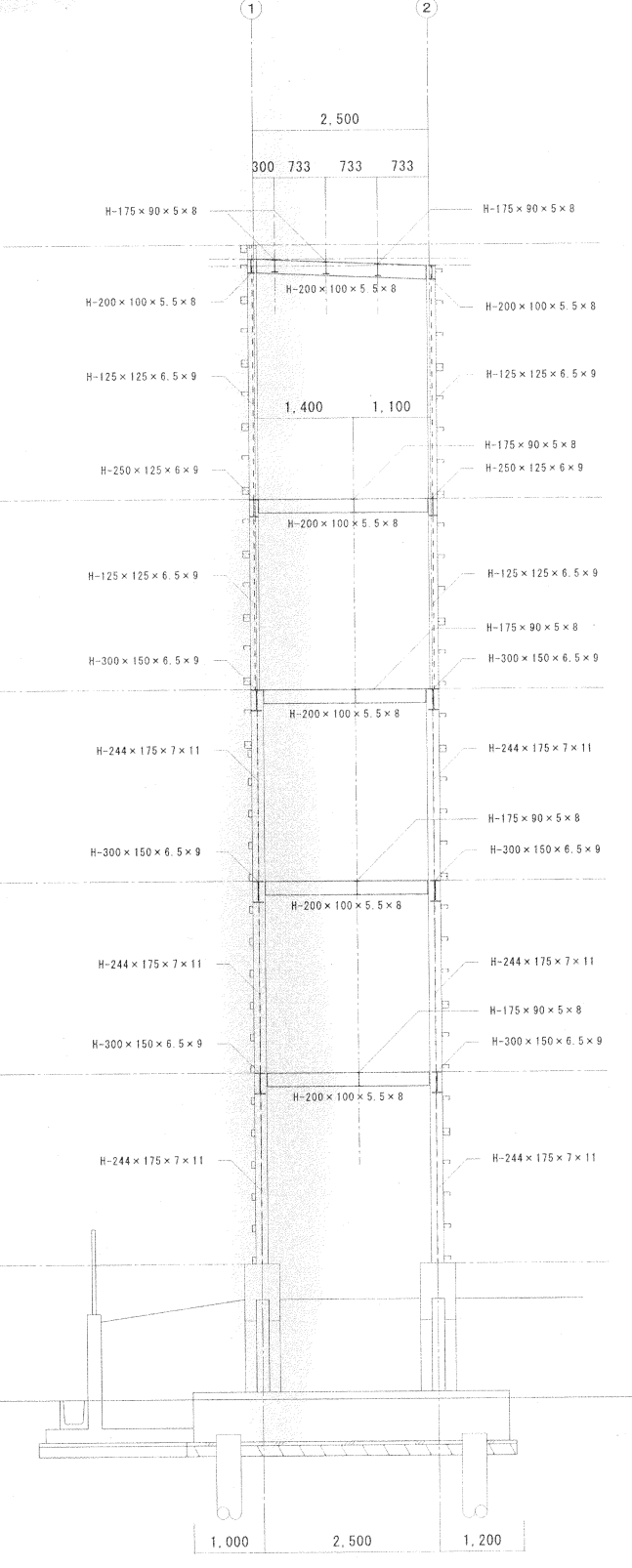
$$= 1/50$$
[illegible]



既設A通り軸組図 S=1/50



既設B、C、D通り軸組図 S=1/50



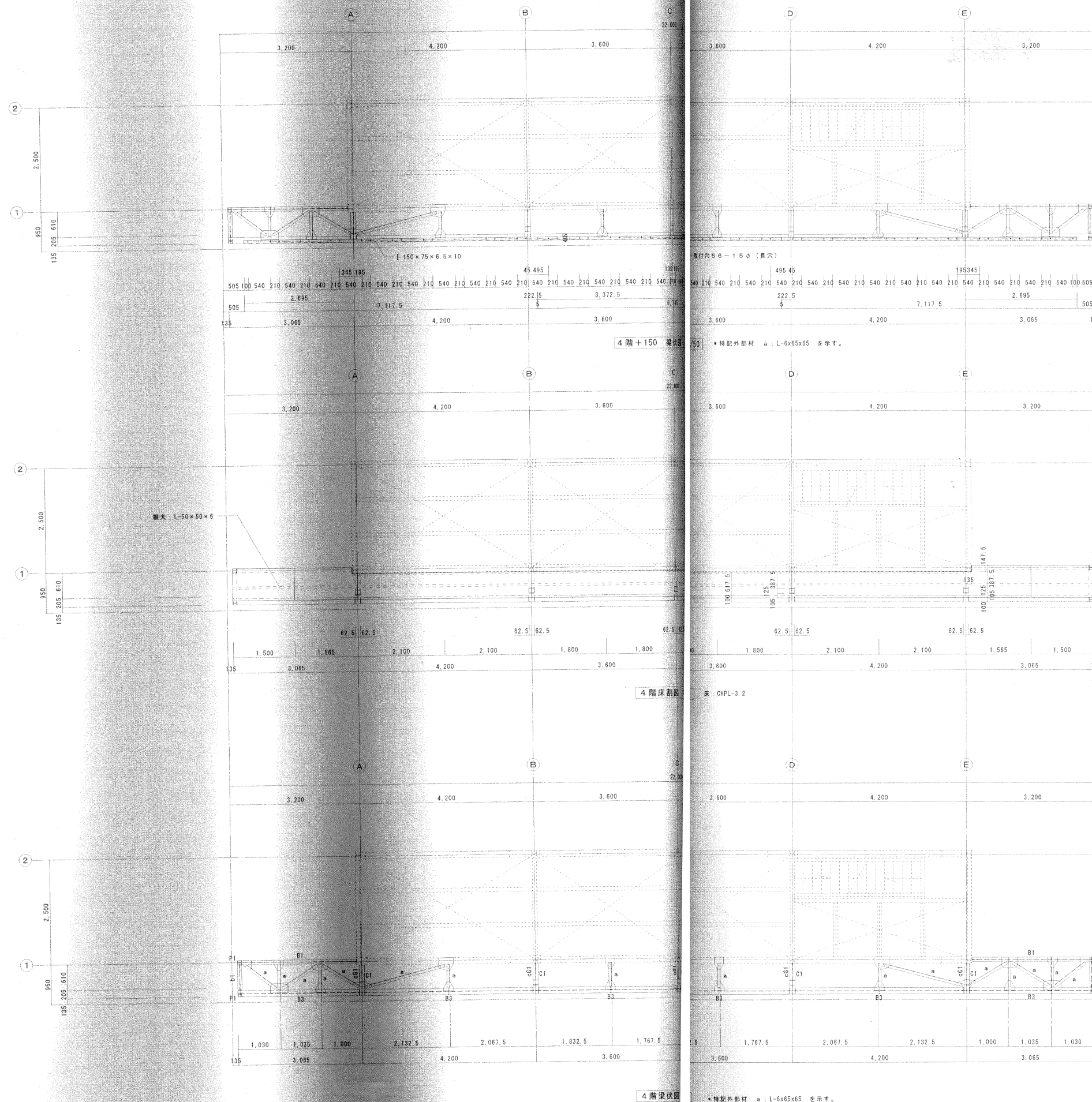
既設E通り軸組図 S=1/50

1	部	品	名	材	質	図書・仕様	備考
組立図						東部総合運動場	
組立図						東部総合運動場スコアボード改修工事	
組立図						既設A～E通り軸組図	
尺	1	50	単位	mm		承認 監査 設計 製図 承認	
日付						石川 石川 高橋	
図番						E-ZS-10122TA-	
作業	EYE 岩崎電気株式会社						

部 材 リ ス ト	記号	C 1	P 1	
	断面			
	主材	H-125x125x6.5x8	H-100x100x6x8	
	接合	GPL-6, HTB2-M16	GPL-6, HTB2-M16	
	備考			
	記号	B 1	B 2	B 3
	断面			
	主材	H-200x100x5.5x8	H-125x125x6.5x9	H-150x150x7x10
	接合	GPL-6, HTB2-M16	GPL-6, HTB2-M16	GPL-9, HTB2-M16
	備考			
	記号			
	断面			
	主材			
	F接合			
	W接合			

c G 1	c G 2	c B 1	
H-250x125x6.5x9	H-125x125x6.5x9	H-125x125x6.5x9	
GPL-6, HTB3-M16	GPL-6, HTB3-M16	溶接接合(現場溶接)	
b 1	a (ラチス材)	T 1	
H-100x100x6x8	L-65x65x6 #450	H-100x100x6x8	
GPL-6, HTB2-M16	GPL-6, HTB2-M16	GPL-6, HTB2-M16	
胴縁	胴縁	胴縁 (ハ' ヲカスクリン)	床版
C-100x50x2.3 #600	C-100x50x2.3 #600	C-125x50x20x3.2 #900	1.5x1.5-7' レート3.2
GPL-4.5, BOLT2-M12	GPL-4.5, BOLT2-M12	GPL-4.5, BOLT2-M12	セシ溶接

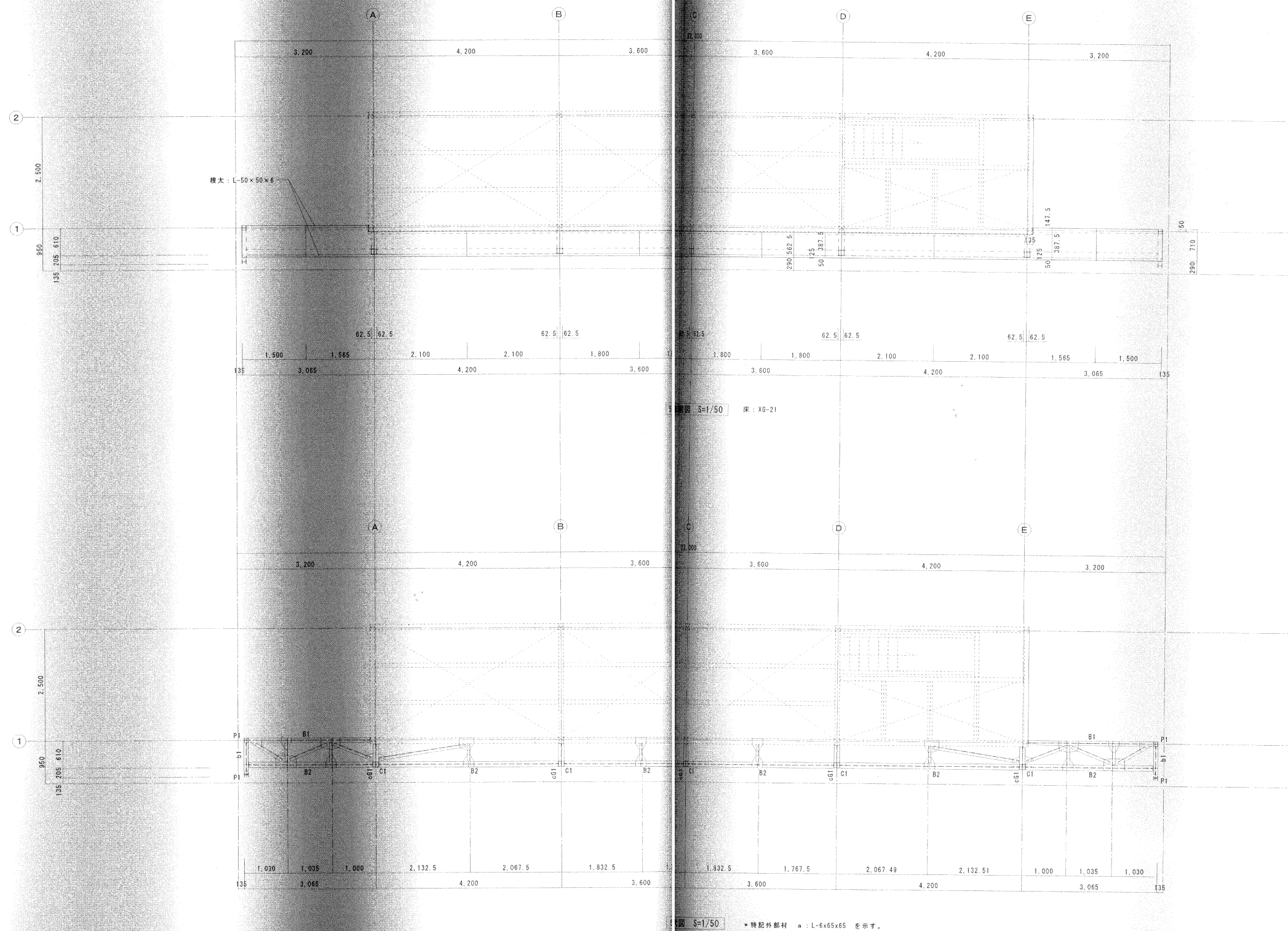
図面	図名	図番	日付	印
△				



1	部	品	名	材	質	図番	仕様	備考
組立図								
組立図								
尺	度	第	角	法	承	認	照	査
1	50	mm			石	川	石	川
日	付				高	橋		
作	業				E-2S-10125TA			

岩崎電気株式会社

図	名	日	付	印
△				



1	部	品	名	材	質	図	番	仕	様	備	考
1	組立	図									
1	組立	図									
1	尺	度									
1	50	単	位								
日	付										
作	業										

東都総合運動場
東都野球場スコアボード改修工事
取付材架伏図2
承認 監査 設計 製図 写図
石川 石川 高橋
E-ZS-10126TA-
岩崎電気株式会社

The image displays architectural drawings of a building's structural frame, specifically focusing on the 5th floor and roof. The drawings are organized into two main sections: the left side shows the 5th floor plan and section, while the right side shows the roof plan and section.

5th Floor Plan (Left): The plan shows a rectangular layout with dimensions of 3,200 x 4,200 x 3,600 x 3,600 x 4,200 x 3,200. The section shows a height of 2,500. The plan includes a central corridor and various rooms. The section shows a cross-section of the floor slab and the supporting structure.

Roof Plan (Right): The plan shows a rectangular layout with dimensions of 3,200 x 4,200 x 3,600 x 3,600 x 4,200 x 3,200. The section shows a height of 2,500. The plan includes a central corridor and various rooms. The section shows a cross-section of the roof slab and the supporting structure.

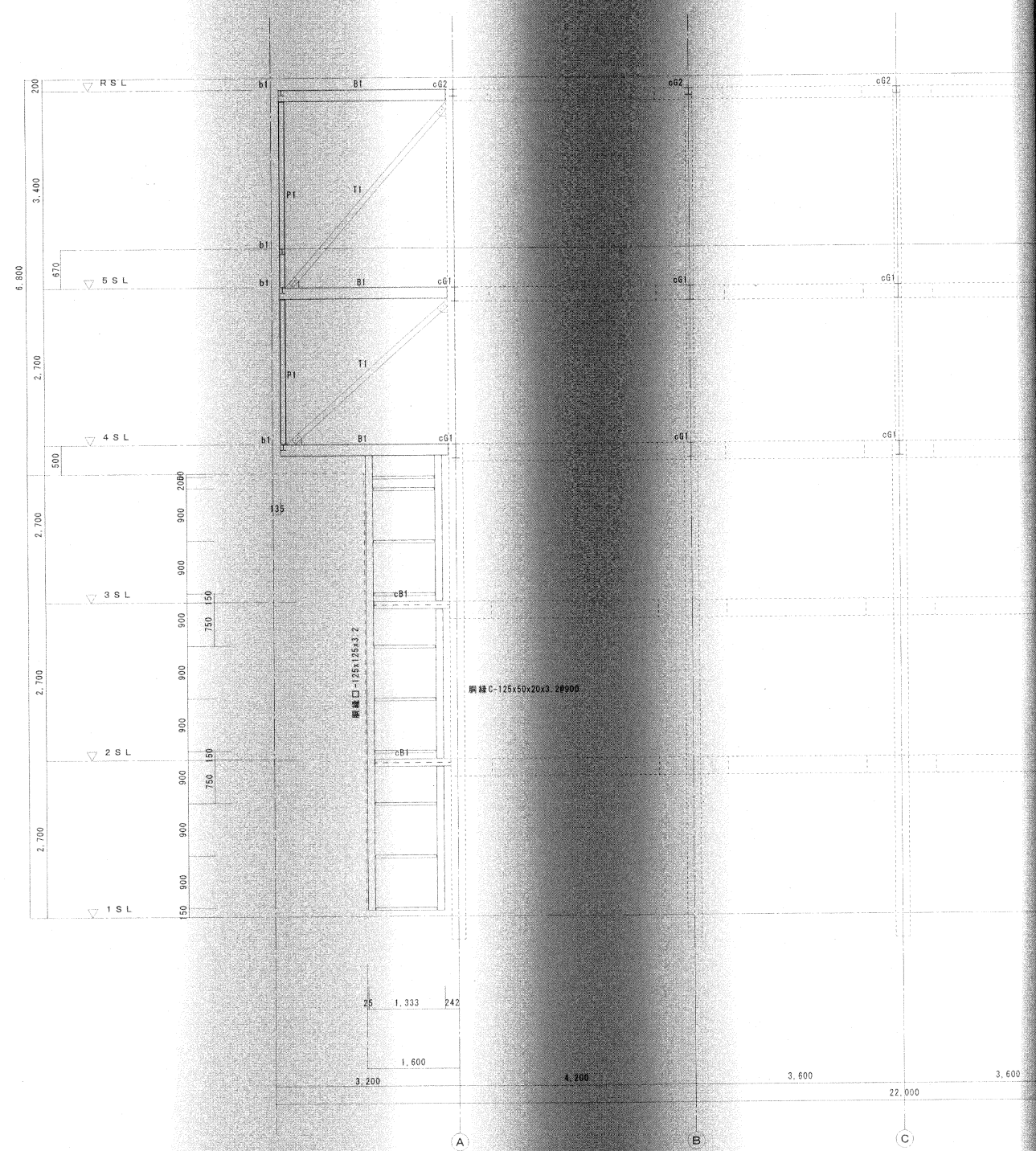
Dimensions and Grids: The drawings use a grid system with letters A, B, C, D, E and numbers 1, 2. Dimensions are given in millimeters (mm) and meters (m). For example, the 5th floor plan has a width of 3,200 mm and a depth of 4,200 mm. The roof plan has a width of 3,200 mm and a depth of 4,200 mm.

Structural Details: The drawings include details of the floor slab, the roof slab, and the supporting structure. The 5th floor plan shows a central corridor with a width of 1,000 mm. The roof plan shows a central corridor with a width of 1,000 mm. The section shows a cross-section of the floor slab and the supporting structure.

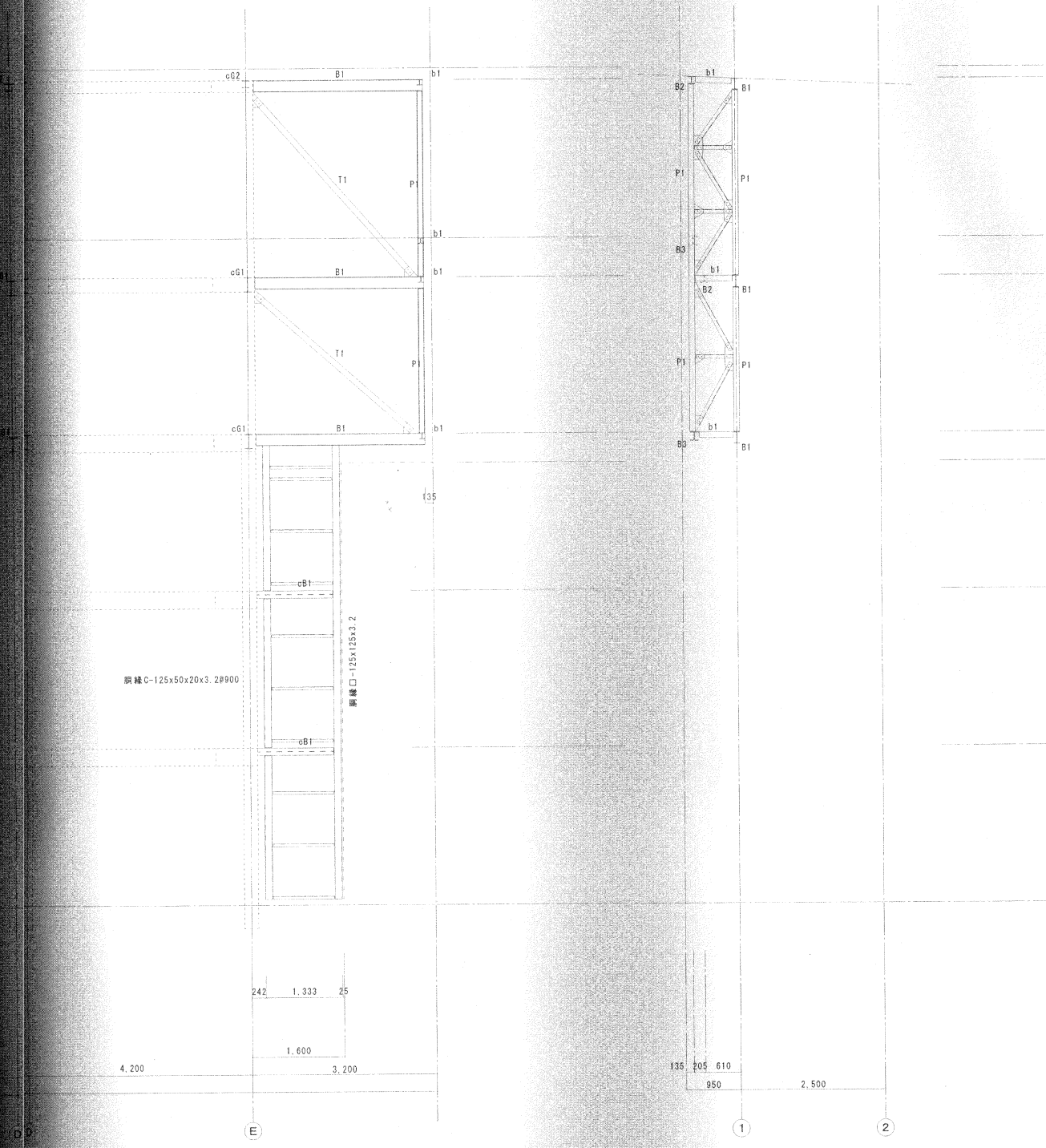
Notes: The drawings include several notes. One note states: "R 階梁 1/50" (5th floor beam 1/50). Another note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A third note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). A fourth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A fifth note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). A sixth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A seventh note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). An eighth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A ninth note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). A tenth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A eleventh note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). A twelfth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A thirteenth note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). A fourteenth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A fifteenth note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). A sixteenth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A seventeenth note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). An eighteenth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1). A nineteenth note states: "5 階 + 6.1" (5th floor + 6.1). A twentieth note states: "5 階 + 8.1" (5th floor + 8.1).

 岩崎電気株式会社

図	番	名	日	付	印
△					



① 通り軸組図 S=1/50



*特記なき部材は a L-6x65x65 を示す。

①・(E)+3200 通り軸組図 S=1/50

1	部	品	名	材	質	図	番	仕	様	備	考
1	組	立	図			名				東部総合運動場	
1	組	立	図			称				東部野球場スコアボード改修工事	
1	尺	度	第	角	法	承	認	照	査	設	計
1	50	mm	単位			石	川	石	川	高	橋
日	付					図				E-2S-10128TA	
作	業					EYE				岩崎電気株式会社	